

日々の振り返りの充実によって、 社会で求められる非認知能力を育む

岡山県立岡山東商業高校

地域に根差した実学教育を通じて有為な人材を送り出してきた岡山県立岡山東商業高校は、社会の変化に対応することが求められるこれからのビジネスリーダーに必要な「見えない力」を育む教育活動に力を注いでいる。各活動の根幹を支えるのが、様々な場面での生徒の振り返りと、それを基にした教師の丁寧な見取りだ。

「見えない力」を 実社会で必要な力として育成

大学等への進学者も含め、卒業生の約9割が県内企業に就職する岡山県立岡山東商業高校では、地域の発展に貢献する上で必要な資質・能力を育むため、地域に根差した実学教育を展開している。6000人以上が収容可能な大型多目的施設を会場に、全学年がクラスごとに企業と連携して1店舗ずつ出店し、商品を販売するイベント「東商デパート」(写真)もその1つだ。

同校では、全科共通の育てたい生徒像として、「ビジネスの視点から、当事者として自分と社会とのつながりを考え続け、課題を発見して自分の意見を根拠を持って述べる」ことができ、

「創造性を有し主体的に行動するとともに、多様な人々とつながり、協働し物事を解決しようとする」姿を掲げている。特に、主体的に行動し、他者と問題解決しようとする力は、変化の激しいグローバル社会やSociety 5.0に対応することが求められるビジネスリーダーに必要な資質・能力であると、森山泰幸校長は説明する。

「他者と協働して問題を解決する土台となるのが、自己管理能力など、点数化が困難な『見えない力』です。本校では、ビジネスリーダーに必要な『見えない力』を、非認知能力として教師と生徒が共通認識を図り、商業の専門知識などの認知能力とともに、その育成を目指しています」

非認知能力の育成の鍵となるのは

が、振り返りの充実だ。同校では、2014年度から導入した「今未来手帳」(※1)を活用して、授業や特別活動など、様々な場面での振り返りに力を入れていると、生徒課長の山本靖宏先生は説明する。

「どんなことを意識して授業に取り組んだのか、クラスメートと学ぶ中でどのような成長を果たしたのかを、各授業で生徒は振り返り、その結果を手帳に記録していきます。私たちはその記録を通して、生徒がどのような非認知能力を発揮したのかを見取り、次の単元の学びに向けたアドバイスを生徒にするとともに、主体的に学習に取り組む態度の評価材料にもしています」

授業中に生徒が非認知能力を発揮する場面が多いほど、生徒は振り返りに



写真 「東商デパート」の開催当日の様子。例年、4時間30分の営業時間中に8000人を超える来場者があるという。

おいて自分の非認知能力の状況を考えやすくする。そこで同校では、「自身の課題に気づく」「物事を解決する」「努力を惜しまない」といった力を発揮す

* 1 ベネッセが提供する手帳型教材。ラインアップは定型版、カスタマイズ版の2種類。岡山県立岡山東商業高校はカスタマイズ版を採用している。



校長
森山泰幸
もりやま・やすゆき
同校に赴任して4年目。



教頭
前田能成
まえだ・よしのり
同校に赴任して2年目。



主幹教諭、進路指導課長
梶原由紀子
かじはら・ゆきこ
同校に赴任して6年目。商業科。



生徒課長
山本靖宏
やまもと・やすひろ
同校に赴任して11年目。保健体育科。



商業科主任
平松知之
ひらまつ・ともゆき
同校に赴任して9年目。商業科。

学校概要

設立 1898（明治31）年
形態 全日制/ビジネス創造科・情報ビジネス科/共学
生徒数 1学年約320人
2023年度卒業生進路実績 国公立大は、滋賀大、岡山大、鳥取大、山口大、香川大、大分大、尾道市立大、公立鳥取環境大などに12人が合格。私立大は、明治大、京都産業大、近畿大、関西大、関西学院大などに延べ109人が合格。短大・専門学校進学119人。就職87人。

る場面を授業中に設定している。

「体育の授業では、自分の実技の様子をタブレットで撮影して、提出させています。自分が納得するパフォーマンスができるまで、時間の許す限り何度でも実技に取り組んでよいとする」とで、生徒は粘り強く課題に向き合う力を発揮します。自分の努力によって結果を更新することができるようにすれば、授業は非認知能力を発揮しやすい場になり、振り返りの質も高まるはずです」（山本先生）

同校では今年度から、放課前の5HRの10分間を使って、「今未来手帳」による1日の振り返りを行っている。「週の日を決め、それがどの程度達成できたかを振り返り、その記述を写真に撮って、生徒はそれぞれタブレットから担任に送信します。担任はコメントを加えて生徒に返信し、自己管理能力の育成を支援しています。手帳を活用したこまめな振り返りを通して、自分を省察する力を生徒に育んでいるのです」（山本先生）

「見えない力」を生徒の中に探し、褒める

生徒が、自分の中に「見えない力」がどのくらい育まれたかを自己認識す

るためには、振り返りの蓄積と教師の支援が不可欠だと、商業科主任の平松知之先生は語る。

「非認知能力は『見えない力』ですが、『今未来手帳』などに蓄積された生徒の振り返りから、生徒がどのような成長を果たしたのかが分かります。そこで私たち教師は、『君はここが成長したね』と生徒に伝えることで、生徒の自己肯定感を高めています」

同校の教師は、「今未来手帳」を始めとする振り返りの記録を、「生徒のよいところを発見し、声をかけるための材料」と考えている。

「もちろん、褒めるばかりではなく、注意しなければいけない場面もありますが、その時にも、『ここはしっかりできているね』と、できている点を認めることで、生徒は教師の注意を素直に受け入れます」（平松先生）

生徒の「見えない力」を丁寧に見取っていくこうとする教師の姿勢は、今後ますます求められるようになると、森山校長は語る。

「これまで私たちは、生徒に資格・検定や就職試験、大学入試に挑戦させることを通じて、粘り強さや自己管理能力を身につけてきました。しかし、日本の高校生の自己肯定感の低さが課題となる中で、『見えない力』を

日々の営みにおいて向上させ、生徒にも自覚させることがますます重要になってきています。「見えない力」は、教科学習などでの『見える力』の習得意欲の向上にもつながるはずですよ」

同校では23年度からの試みとして、ベネッセと共同で「見えない力」の変容を可視化する研究に取り組んでいる。「進路達成プログラム（*2）自分らしさデザイン（*3）」において、「課題を明らかにする経験」「目標・計画を実行する経験」など、非認知能力の育成につながると思われる6つの経験について、生徒がどの程度経験を積んだかを測定し、自校の生徒の傾向を把握している（図1）。そして、生徒にどのような経験が不足しているかを教師間で共有し、その後の声かけに生かしている。

「見えない力」を鮮明にして教育活動を再編する

実社会でも求められる非認知能力などの「見えない力」を育成することは、生徒の高校生活をよりよくすると、主幹教諭の梶原由紀子先生は語る。

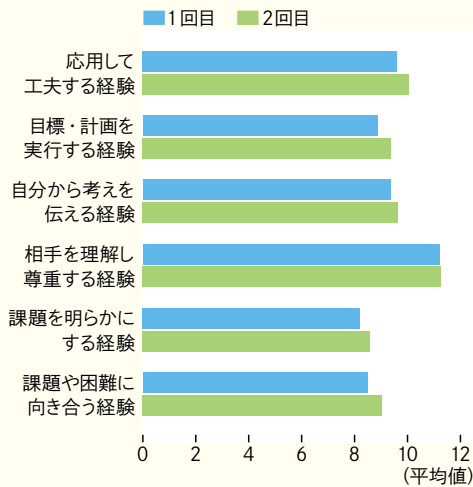
「振り返りの内容から非認知能力の高まりを感じると教師間で話題になった生徒がその後、大学入試や就職試験

*2 「自分の軸を持った進路選択」の達成を支援するためのベネッセの進路学習教材。

*3 アンケートを基にした学問・職業・上級学校との適性を可視化する診断と、診断の結果返却後に取り組む、自己理解、学問・職業探究等の進路ワークなどがセットになった教材。

図1 生徒の資質・能力の変容 (進路達成プログラムにおける調査)

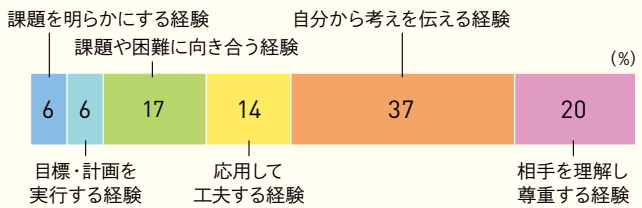
23年度2年生の6つの経験についての変容



ビジネス創造科2年生の生徒を対象にした調査 (2023年5月・12月に実施)において、「見えない力」の育成につながる経験がいずれも増加していることが分かった。

※学校資料を基に編集部で作成。

24年度1年生の6つの経験の現状



24年度1年生を対象とした調査では、課題を明らかにする経験や、目標・計画を実行する経験が不足していることが分かった。

6つの経験を促す教師の支援について語る24年度1年生の声

	自分が最も大切にしたい経験	具体的にどのようなことをしたか・その際の教師の支援は
生徒A	課題を明らかにする経験	部活動やサークル活動が計画通りにいかなかった時に、どうすればうまくいくかを考えながら取り組んだ。そうした試行錯誤を顧問の先生が褒めてくれた。
生徒B	目標・計画を実行する経験	資格・検定取得に向けて決められた日にちまでに学習を進めた。先生は、複数の科目の学習が順調に進んでいる時などに、「どちらもできるんだね」などと褒めてくれて、自信を持たせてくれた。

課題を明らかにする経験や目標・計画を実行する経験を積ませるように、教師は意識的に生徒に声かけを行っている。

図2 育成を目指す生徒像と非認知能力の育成につながる経験のひもづけ

岡山東商業高校で育成を目指す生徒像 (素案)	「進路達成プログラム」で診断している経験
<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見して自分の意見を述べる 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を明らかにする経験 課題や困難に向き合う経験 自分から考えを伝える経験
<ul style="list-style-type: none"> 新たな価値を創造する 	<ul style="list-style-type: none"> 応用して工夫する経験
<ul style="list-style-type: none"> 他者と協働する 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を理解し尊重する経験
<ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 目標・計画を実行する経験

※学校資料を基に編集部で作成。

の小論文、志望理由書の内容、面接での受け応えなどで驚くような成長を見せることがよくあります。そうした生徒の姿を見てきたからこそ、本校の先生方は、非認知能力の育成に一体となって取り組んでいるのだと思います。」

現在、同校では非認知能力の重要性のさらなる理解を校内、そして地域に浸透させるために、育成を目指す「見えない力」を、すべてのステークホルダーにとって分かりやすい言葉で表現

することを目指している。24年度中の完成を目標に、校訓やスクール・ポリシー、生徒のロールモデルとなる地域のビジネスリーダーの姿などを基に、自校で育成したい生徒像、育みたい資質・能力について校内で語り合っていると、前田能成(のりなり)教頭は説明する。

「課題を発見して自分の意見を述べる力、他者と協働する力などが、本校の生徒に育みたい資質・能力の中核になるのではないかとということが見えてきました。本校で育成を目指す『見えない力』を、「進路達成プログラム自分らしきデザイン」の6つの経験とひもづけて(図2)、『見えない力』の育成と6つの経験の関係をさらに検証し、その結果を、探究学習や課題研究、授業、そして『東商レポート』などを始めとする多様な取り組みにおける活動内容の改善や再編成に役立てていくことを考えています。」

「学校行事や部活動、課題研究などが盛んな本校は、生徒が他者とかかわる機会が豊富で、非認知能力を育む上で最適な環境にあると思っています。本校ならではの強みを生かして、今後ますます重要になる『見えない力』を生徒に育んでいきたいと考えています。」(森山校長)